宇治の認知症当事者が手作り

木製本棚 勉強スムーズ

作業工房ほうおう 子供の「学び舎」に納品

社会福祉法人悠仁福祉会「京都認知症総合センター」（宇治市）の作業工房ほうおうで認知症当事者が本棚を手作りし、27日、市社会福祉協議会に納品した。使いやすさを重視した木の温もりあるオーダーメイドの作品。市が市社協に委託実施している子供たちの学習支援と居場所「うじピョンの学び舎」で役立てられる。

作業の中心となったのは、同センタークリニックの患者でセンター内にある認知症カフェ（カフェほうおう）の非常勤職員、藤田佳児さん（61）＝同市寺山台＝。

藤田さんは昨年、若年性アルツハイマー型認知症と診断された。カフェほうほうで毎月第1・3水曜日に定例活動を行っている認知症当事者や家族が対象の作業工房ほうおうに参加し、木材加工などをしている。

センターと市社協がタイアップを模索する中、社協が同工房に注目し、うじピョンの学び舎で使う本棚を発注。新型コロナウイルスの影響で工房の定例活動が3月上旬から中止になったため、藤田さんとサポート役のヴィラ鳳凰介助員、浅田至孝さんが同下旬から週1回ペースで約2カ月かけて作製した。

藤田さんは30年来、機械設計の仕事に携わってきた。本棚の作製にあたって、用途やサイズなどのリクエストを細かく聞き、設計から手掛けた。

完成品は幅約90㌢、奥行き約50㌢、高さ約140㌢。スギの集成材を使用し、移動しやすいよう大きめのキャスターを取り付けた。面取りをし、釘の穴をパテで埋めるなど丁寧に仕上げてある。

学び舎で使うテキストはプラスチックケースに平積みして会場に置いてきたが、本棚に縦置きすることで整理整頓でき、タイトルの確認や出し入れもスムーズになる。市総合福祉館内の倉庫から会場の部屋に運ぶ負担も無くなる。

藤田さんは「どこにでも持っていける。必要な物を入れ替えて使い、ここに来たら何でもできるような、みんなが集まるような所になってほしい」と期待を寄せた。

ボラ学習支援員募集

宇治市社会福祉協議会は「うじピョンの学び舎」のボランティア学習支援員を募集している。

学び舎は2017年度にスタート。10人ほどの中学生…

手作りの本棚を紹介する藤田さん㊧（宇治市総合福祉会館）

◆…「世界中が穏やかになりますように」。

◆…新型コロナウイルス終息への願いを込め、久御山町シニアクラブ「ハートクラブ」に。

◆…女性部も、従来のように集まることや定例活動ができなくなる当者から郵送されたクローバーやハトのイラストの複写を、部員全22人が色鉛筆や蛍光ペ

◆…ピンクやオレンジ、鮮やかな赤、青や紫など色とりどりのクローバーが輪になって…った部員…それぞれ…えられて…担当者も…びに輪が…

宇…

日本茶…などを手…（宇治市…27日、新…ルス感染…にマスク…した。

同社は…か、宇治…などで抹…営していて…

この日は…長が市役…本正市長に…託した。

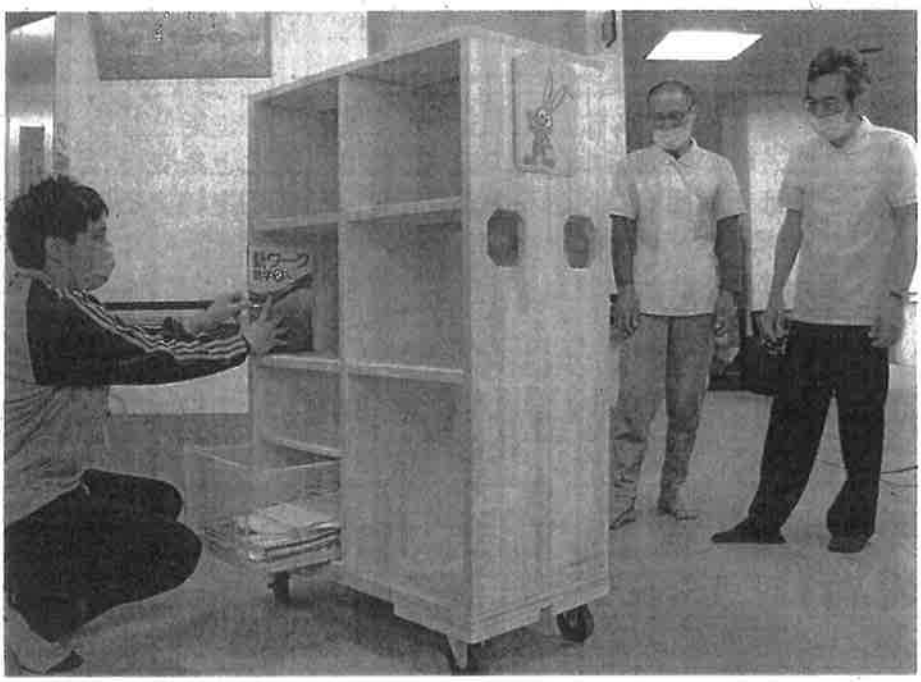
コロナ…益が大幅…境に面し…治橋通り…スクを寄…元貢献を…千社長は…

第3種郵便物認可　5/28（木）　京　都

設「D－egg」で日本茶を使った新たな飲料商品づくりに取り組むベンチャー「Hokuzan」を経営する。商品開発から販売まで、全てを

認知症の人が本棚設計製作

宇治の総合センター



藤田さん（右）らが納品した本棚に教材を入れる職員（宇治市宇治・市総合福祉会館）

宇治市宇治の京都認知症総合センターでものづくりに励む認知症の人が作った本棚が27日、市社会福祉協議会に納品された。中学生を対象にした市社協の学習支援事業で使われる本棚で、動かしやすいようキャスターを付けたり、中学生でも手の届く高さにしたりするなどの工夫を凝らしている。

市社協に納品　中学生の学習に

木工製作などを通じて、認知症当事者の社会参加を支援するプログラム「作業工房ほうおう」が2019年12月、同センターに開設。月2回、当事者が作業し、これまで同市内の特別養護老人ホームなどに製品を納めた。

学習支援事業の教材を平積みで保管するなど収納に困っていた市社協が2月上旬、本棚の製作を依頼した。当初からプログラムに参加する藤田佳児さん(61)が、機械製作会社に勤めた自身のノウハウを生かして、本棚を設計。新型コロナウイルスの感染防止策を取った上で、藤田さんと同センター職員の2人で5月下旬に完成させた。

本棚は3段で、高さ140センチ、幅90センチ。A4判の教材が収納でき、移動しやすいようキャスターを設けた。

27日に本棚がお披露目され、藤田さんは「本棚のキャスターを大きくして、教材を運びやすくした。頑丈に作ったので、たくさんの本を入れてほしい」と話し、市社協の土橋剣和主事は「要望通りに作ってもらえたので、教材の運搬や整理が楽になる。学習に役立てたい」と喜んだ。（田中恒輝）

上ティーバッグに入ったかぶせ茶。熱湯でもおいしく入れられる　下児童養護施設「京都大和の家」に宇治茶を寄付する山北さん（中央）＝精華町南稲八妻

こぼればなし

ックスした商品シ
識外れ」を意味す
差万別。今までの
った楽しみ方を追
めている。

聖火リレーのぼり寂し

京田辺市役所「来年こそ」と飾る

東京五輪の聖火リレーが山城地域を巡ることになっていた27日、沿道を飾る予定だったのぼりが京田辺市役所にお目見えした。市は「本当なら盛り上がっていたはずなのに」と寂しさをのぞかせつつ、来年の実施に期待を込め、機運の盛り返しを目指す。

聖火リレーの沿道を飾る来年の実施に期待を込めた（京田辺市役所）

聖火リレーは当初、3月26日に福島県を

新型コロナウイルス感染拡大の影響で臨時休校を続けてきた、笠置町と和束町、南山城村の公立小中学校が27日、約3カ月ぶりに再開した。子どもたちはマスク姿で、新たな気持ちで授業に臨んだ。

2町1村でつくる相楽東部広域連合教育委員会によると、再開したのは小学校3校と中学校2校。都市部と違って「3密」を避域性を考慮し、他の学校より早た。

笠置町笠置の笠1～6年の児童姿で登校した。のため、教室にいと手指の消毒では、2メートルほど着席した。

5年のクラス

笠置・和